

産科と婦人科 第92巻 総目次

令和七年
2025年

通し頁一覧表

1月号	1 ~ 128	5月号	465 ~ 592	9月号	953 ~ 1072
2月号	129 ~ 240	6月号	593 ~ 712	10月号	1073 ~ 1184
3月号	241 ~ 352	7月号	713 ~ 848	11月号	1185 ~ 1304
4月号	353 ~ 464	8月号	849 ~ 952	12月号	1305 ~ 1432

—— 特 集 ——

▶ 1月号・避妊と人工妊娠中絶 up-to-date ◀

I. 総論

1. SRHR からみた避妊と人工妊娠中絶 福原理恵・他 7
2. 日本家族計画協会がわが国の家族計画・避妊の歴史の中でどのような役割を果たしてきたか 北村邦夫 13

II. 避妊

3. わが国の市場から消えた避妊法 杉村由香理 23
4. 日本における避妊法の全国実態調査 瀧田寛子・他 31
5. 低用量経口避妊薬による避妊 岩佐武・他 36
6. 子宮内レボノルゲストレル放出システムによる避妊 池田裕美枝 40
7. 緊急避妊薬による避妊 伊藤文武 45
8. 生活保護世帯に対する避妊支援 西岡利泰 50
9. 健康サポート薬局における緊急避妊薬の対応 若林由香子・他 55
10. 海外で使用されている避妊法 寺内公一 61

III. 人工妊娠中絶

11. 日本における人工妊娠中絶 石谷健 67
12. 人工妊娠中絶に関係する法令と裁判例 秦奈峰子 71
13. 人工妊娠中絶の配偶者同意 種部恭子 77
14. 傍頸管ブロックと手動真空吸引法による低侵襲な人工妊娠中絶術 杉山太朗 85
15. 経口中絶薬 稲葉可奈子 91
16. 女性の権利が政治利用されるアメリカ
—プロ・ライフとプロ・チョイス：アメリカの現況— シェリーめぐみ 96

▶ 2月号・遺伝診療・ゲノム医療の最新動向—産婦人科医のためのナビゲーション— ◀

I. 総論

1. 出生前遺伝学的検査・診断に関する生命倫理的課題 佐村修 133
2. 婦人科がんゲノム医療の最新動向と課題 植野さやか・他 139
3. 網羅的遺伝子解析の基礎と周産期領域への応用 漆山大地・他 147
4. ゲノムインブリティングとヒト疾患 柴田峻・他 152

II. 各論

5. 着床前遺伝子検査 (PGT) の実際 佐藤卓・他 159
6. 不育症の遺伝診療 矢野好隆・他 169

7. 非侵襲性出生前遺伝学的検査(NIPT)	吉田 彩・他	175
8. NIPT, 羊水検査, 絨毛検査に関する遺伝カウンセリングの実際	鈴 森 伸 宏	180
9. がん遺伝子パネル検査の実際	織 田 克 利	185
10. 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)	植 木 有 紗	191
11. HBOC 診療における遺伝カウンセリングの実際	櫻 井 晃 洋	197
12. Lynch 症候群	千代田達幸・他	203
13. リキッドバイオプシーの婦人科腫瘍診療への応用	岩 橋 尚 幸・他	209

▶ 3月号・産婦人科領域のトランスレーショナルリサーチの展開
—若手医師への研究のススメ— ◀

I. 婦人科腫瘍

1. 婦人科がんの新規免疫治療法の開発の現状	小笠原仁子・他	245
2. 婦人科がんのトランスレーショナルリサーチ—病理組織像, HRD, 免疫チェックポイント阻害薬, ペバシズマブ—	松 村 謙 臣	252
3. 子宮頸部胃型腺癌発生のメカニズムの解明	宮 本 強	259
4. 子宮内膜癌の進展メカニズムの解明	石 黒 竜 也	265
5. 遺伝子変異解析を軸とした GnRH アナログによる子宮筋腫の 縮小効果予測	永 井 康 一	270
6. 婦人科腫瘍における antibody drug conjugate の実用化と課題	鈴 木 幸 雄	275

II. 生殖内分泌

7. 初期胚発生の分子機序はどこまで解明されたか	松 沢 優 一・他	281
8. 胚発生とミトコンドリア	伊集院昌郁・他	286
9. 精子免疫と不妊症研究の最前線	陳 月 焜・他	293
10. 着床前遺伝学的検査の進化	佐々木 愛 子	298

III. 周産期

11. 妊婦の深部静脈血栓症メカニズムの解明	根 木 玲 子・他	303
12. 妊娠高血圧症候群の関連病態の発症メカニズムの解明	熊 澤 恵 一	309
13. 子宮頸管熟化の制御機構	下 川 理 沙・他	315
14. 網羅的遺伝子発現解析法を用いた胎盤トロホブラスト形成にかかわる 新規 ERV 遺伝子の同定	杉 本 潤	320

▶ 4月号・産婦人科における素朴な疑問と解説(3) 婦人科続編 ◀

I. 婦人科一般

1. どうしてエストロゲンは脂肪に蓄積されるの? 何か影響はあるの? ..	垂 水 洋 輔・他	357
2. どうして排卵する卵胞は1個なの? ほかはもう排卵しないの?	佐藤はづき・他	363
3. どうして PCOS の診断基準で AMH が重要視されたの? 発症メカニズムや治療法にも関係あるの?	松 崎 利 也・他	369
4. どうして子宮内膜症は不妊症の原因になるの? 治療は体外受精でなければいけないの?	馬 場 七 織・他	377
5. どうして卵巣子宮内膜症性嚢胞は感染しやすいの? 治療上の注意点はあるの?	北 島 道 夫	383
6. どうして子宮腺筋症は不妊症の原因になるの? 妊娠するには摘出術をしたほうがいいのか?	松 尾 光 徳・他	389
7. どうして卵巣成熟奇形腫は茎捻転を起こしやすいの? 卵巣子宮内膜症性嚢胞は捻転しないの?	橋 本 優 子・他	395

II. 女性医学

8. どうして LEP や子宮内システムを含むプロゲステロン療法中に ときどき異常子宮出血があるの? 対応法は?	楠 木 泉	401
9. どうして女性は月経がきそうってわかるの? 妊娠したとき		

月経前症候群が起こらないのはなぜ？	小 川 真里子	407
10. 骨盤臓器脱のリスクになるのに経陰分娩や子宮全摘は このまま継続していいの？ 予防法は？	古 山 将 康・他	413
11. どうして産婦人科医が閉経後骨粗鬆症の治療をするの？	寺 内 公 一	419
III. 腫 瘍		
12. どうしてTC療法は回数を重ねてからアレルギーを起こすの？ 予防法は？	伊 藤 宗 洋・他	427
13. どうして同時化学放射線療法は子宮頸癌に有効なの？ 貧血がよくないのはなぜ？	大 野 達 也	431
14. 本当にHPVは子宮頸部に感染した後に排除されるの？	川 名 敬	437

▶ 5月号・胎盤を多角的に理解する ◀

1. ヒト胎盤の初期発生と栄養膜幹細胞研究	大 池 輝・他	469
2. 人工胎盤研究の現況	齋 藤 昌 利	475
3. 胎盤栄養膜細胞の合胞体化と内在性レトロウイルスのかかわり	杉 本 潤	481
4. 低分子薬物と生物学的製剤の胎盤透過制御	登 美 斉 俊	489
5. 胎盤に由来する細胞外小胞の意義と周産期病態における役割	橋 本 彩 子	495
6. 胎盤由来の血管新生関連因子がかかわる周産期異常	大 口 昭 英	501
7. 進化からみた胎盤ゲノムーエピゲノムの特徴と疾患との関連—	秦 健一郎	507
8. 妊娠関連胎盤特異的 cell-free microRNA の同定とその臨床応用	長谷川ゆり・他	513
9. 胎盤に由来する DNA と臨床応用	関 沢 明 彦・他	521
10. 癒着胎盤に関する画像診断の進歩と課題	池ノ上 学	527
11. 胎盤の病理所見から考える周産期病態	松 岡 健太郎	533
12. 胎盤に起因する一絨毛膜双胎特有の疾患	村 越 毅	541
13. 絨毛性疾患のアップデート	新 美 薫・他	549
14. 間葉性異形成胎盤の最新知見	小 寺 千 聡・他	555
15. 胎児共存奇胎の取り扱い	尾 本 暁 子・他	561

▶ 6月号・新時代の若手キャリアをつくる—産婦人科教育の最前線— ◀

I. 総 論		
1. 産婦人科における医学教育の変遷と新時代の形 —若手キャリアの処方箋—	杉 村 政 樹	597
2. 医学教育が産婦人科に与える影響と地域におけるインパクト	磯 部 真 倫	604
3. 未来へ向けた産婦人科専門医制度	関 沢 明 彦・他	610
II. 各 論		
4. 周産期・新生児分野における教育の最前線	小 谷 友 美・他	616
5. 婦人科腫瘍分野における教育の最前線	安 彦 郁	622
6. 生殖医療分野における教育の最前線	佐 古 悠 輔	626
7. 女性ヘルスケア分野における教育の最前線	石 川 博 士・他	631
8. 腹腔鏡、ロボット手術が産婦人科教育を変える	小 松 宏 彰	636
9. 国際学会や英文論文出版へのモチベーション	鈴 木 幸 雄	640
10. 地域格差のない教育環境を創出する —手術教育プラットフォーム OSVD と OSP の挑戦—	堀 澤 信・他	645
11. オンラインプラットフォームを用いた新しい働き方、教育、情報発信	重 見 大 介	651
12. SNS の活用が産婦人科教育を変える	近 澤 研 郎	657
13. 未来を紡ぐ産婦人科研究—魅力と意義、そして次世代への架け橋—	東 山 希 実・他	660
14. 海外留学のススメ	津 田 さやか	666
15. 産婦人科教育における公衆衛生・医療行政へのかかわり	井 上 恵 莉	673
16. AI が拓く産婦人科教育の未来	佐 藤 雅 和	679

▶ 7月号・エキスパートに聞く！不妊治療施設における指針と工夫 ◀

I. 一般不妊治療		
1. 一般不妊治療における検査スケジュールと指針	梶原 健	717
2. 排卵障害に対する治療指針	岩佐 武・他	723
3. 一般不妊治療におけるタイミング法・人工授精のあり方 —当院の指針と工夫—	牧野 祐也・他	729
II. 不妊症関連疾患		
4. 多嚢胞性卵巣症候群・肥満と不妊症	高橋 望・他	735
5. 子宮筋腫・子宮腺筋症と不妊症	木下 真由・他	741
6. 卵巣子宮内膜症性嚢胞と不妊症	五十嵐敏雄・他	747
7. 慢性子宮内膜炎・子宮内膜ポリープと不妊症	市川麻祐子・他	754
III. 生殖補助医療		
8. 当 ART 施設の検査スケジュールと指針	林 奈央・他	759
9. 当 ART 施設の卵巣刺激とトリガー (Sugiyama Method)	中川 浩次・他	764
10. 当 ART 施設の精子調整・採卵・媒精・顕微授精	郡山 智恵・他	770
11. 当 ART 施設の胚培養と凍結融解	伊藤 基樹・他	777
12. 当 ART 施設の胚移植と黄体補充	伊藤 歩・他	785
IV. 生殖補助医療(難治例)		
13. 難治性男性不妊患者の検査と治療	小宮 顕・他	791
14. 当 ART 施設の反復着床不全に対する指針	京野 廣一・他	797
15. 当 ART 施設の卵巣機能不全に対する指針	河村 和弘	801
16. がんと妊孕性温存	坂口 史奈・他	807

▶ 8月号・ホルモン補充療法ガイドライン 2025 年度版改訂のポイント ◀

I. 総論		
1. HRT ガイドライン改訂の経緯とポイント	樋口 毅	853
2. HRT と認知機能・気分障害	澤田 健二郎	859
3. HRT と悪性腫瘍(効果および有害事象)	小川 真里子	865
4. HRT と QOL・生命予後(全死亡率)	横田 めぐみ	871
5. HRT と肝胆道系疾患	大島 乃里子	877
II. 各論		
6. 閉経関連尿路性器症候群(GSM)に対し HRT は有効か？	北島 道夫	881
7. サルコペニア予防に HRT は有効か？	東 浩太郎	887
8. 子宮内膜症・子宮筋腫を有する女性に HRT は可能か？	平池 修	893
9. 早発卵巣不全(POI)に HRT は推奨されるか？	飯野 香理	899
10. 卵巣癌治療後の HRT は推奨されるか？	佐藤 美紀子	902
11. BRCA1/2 病的バリエント保持女性に HRT は推奨されるか？	平沢 晃	907
12. 炎症性腸疾患を有する女性に HRT は可能か？	西ヶ谷 順子	910
13. レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)は HRT に用いる 黄体ホルモン製剤として使用可能か？	望月 善子	914
14. 心血管系の有害事象を減らすために HRT の開始時期を考慮すべきか？	佐々木 浩	919
15. 60 歳以上の女性に対する新規 HRT は可能か？ HRT はいつまで継続可能か？	森 泰輔	924

▶ 9月号・もう「不定愁訴」なんて言わない！—他科に学ぶ更年期外来診療のポイント— ◀

I. 全身		
1. 易疲労感	三木 健司	959

II. 循環器		
2. 動悸	甲谷友幸	965
III. 精神・神経		
3. 頭痛	永田栄一郎	971
4. うつ	杉山暢宏・他	978
5. 不眠	矢走円・他	985
6. もの忘れ	大久保卓哉	993
IV. 運動器		
7. 筋力低下	東浩太郎	998
8. 関節痛	松本功	1004
9. 腰痛	松平浩	1009
V. 泌尿器		
10. 頻尿	二宮典子・他	1015
VI. 皮膚		
11. 発汗	藤本智子	1021
12. 脱毛	伊藤泰介	1027
VII. 感覚器		
13. ドライアイ	後藤田哲史・他	1033
14. めまい	角田玲子・他	1037
15. ドライマウス・舌の痛み	伊藤加代子・他	1043

▶ 10月号・もっと知りたい！妊婦の栄養・食事の疑問点 ◀

I. 総論		
1. 妊娠前からの栄養・食事の留意点は？	内倉友香・他	1077
2. 妊婦の栄養と至適体重増加については？	春日義史	1085
3. わが国における妊婦の栄養管理の歴史とDOHaD学説とのかかわりは？	伊東宏晃	1091
4. DOHaDに関する最新知見は？	池ノ上学	1099
5. エコチル調査からみえる妊婦の栄養に関する最新知見は？	西郡秀和	1104
6. 母体栄養への介入により児のアレルギー疾患発症予防は可能か？	成田雅美	1110
II. 各論		
7. 妊婦における発酵食品摂取、プロバイオティクスの有用性は？	伊藤実香・他	1115
8. 妊娠高血圧症候群の栄養に関するエビデンスは？	小松摩耶・他	1121
9. 妊婦に対する鉄補給の留意点は？	五島裕之・他	1126
10. 妊婦・胎児にとって注意すべきサプリメント、嗜好品は？	山下隆博	1132
11. 感染症予防のために食事で注意することは？	松岡咲子・他	1138
12. 妊娠中の魚介類摂食における留意点は？	川城由紀子	1143
13. 糖代謝異常合併妊娠の栄養・食事指導はどのように行うか？	高橋嘉名芽	1147
14. 肥満妊婦の行動変容を促す生活指導のポイントとは？	大谷紗弥子	1153

▶ 11月号・HPV検査単独法の子宮頸がん検診ってなに？—理解・準備・社会実装まで— ◀

1. 子宮頸がん排除に向けた世界戦略(Cervical Cancer Elimination Initiatives)における検診の重要性	藤田則子	1189
2. 予防医学先進国における子宮頸がん検診の動向と将来の課題	柴田健雄・他	1194
3. 日本の子宮頸がん検診の歴史を紐解く	松浦祐介	1203
4. 有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年版のポイント	中山富雄・他	1210
5. HPV検査単独法検診に関するエビデンス	黒川哲司	1217
6. HPV検査キットの特性と海外のHPV検査単独法アルゴリズム	松本光司	1222

7. 「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」 のポイント	森 定 徹	1230
8. HPV 検査単独法による子宮頸がん検診導入を目指す自治体が 準備すべきこと	雑 賀 公美子	1236
9. HPV 検査単独法の実施に向けた情報提供と活用可能な資材	町 井 涼 子	1241
10. HPV 検査単独法検診について受診者へ伝えるべきこと	齊 藤 英 子・他	1247
11. HPV 検査単独法における腺癌検出の精度と課題	横 山 正 俊・他	1253
12. 妊婦の子宮頸がん検診の動向—HPV 検査は推奨される?—	松 永 梨 沙・他	1259
13. HPV 陽性者の細胞診トリアージの意義と課題	大河戸光章・他	1265
14. 横浜市における HPV 検査単独法検診の社会実装の経験からのアドバイス	小 関 聡	1271
▶ 12月号・地味に進化している!? 定番の婦人科診療をブラッシュアップ ◀		
I. 子宮疾患および月経関連疾患		
1. 月経困難症と過多月経	石 川 博 士	1309
2. 異常子宮出血 (AUB)	奈良亮謙・他	1316
3. 子宮頸部異形成・子宮頸部上皮内がん	森 定 徹・他	1322
4. 多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)	岩 佐 武・他	1326
5. 不妊症・不育症と甲状腺機能低下症	齊 藤 和 毅	1332
6. 月経前症候群 (PMS)	小川真里子・他	1339
II. 感染症ほか外陰疾患		
7. カンジダ膣炎・外陰炎	野 上 侑 哉	1345
8. 性器ヘルペス	出 口 雅 士	1349
9. クラミジア	笹 秀 典	1355
10. 梅 毒	大 石 元	1361
11. バルトリン腺嚢胞	橋 本 優 子・他	1367
III. 周閉経期以降の疾患		
12. 更年期障害	寺 内 公 一	1372
13. 骨盤臓器脱・ペッサリー療法	五十嵐敏雄・他	1379
14. 骨粗鬆症・骨量減少	石 谷 健	1385
15. 閉経関連尿路性器症候群 (GSM)	二 宮 典 子	1391

— 原 著 —

40歳以上の月経困難症に対する GnRH アンタゴニストとジェノゲストを 組み合わせた新しい治療法—予期せぬ不正子宮出血を防止するために—	合 阪 幸 三・他	337
当院における早期子宮体がんに対する低侵襲手術の長期予後	秋 田 寛 佳・他	575
避妊薬の処方方針およびアンメットメディカルニーズに関する産婦人科医 アンケート調査	弥 永 圭 太・他	825
ホルモン補充療法中に子宮内膜がんを発症し治療した症例に関する検討	江 口 聡 子・他	1289
遷延分娩は予測できるか?	高 橋 望・他	1407

— 症 例 —

ジノプロストン腔用剤を用いて計画分娩を行った抗リン脂質抗体症候群 および特発性血小板減少性紫斑病合併妊娠の1例	三浦あかり・他	115
腹腔鏡下子宮全摘術後の著明な悪心から脳腫瘍が発見された1例	伊 藤 雄 二・他	227
傍大動脈リンパ節腫大を契機として診断に至った子宮体部悪性リンパ腫の 1例	藤 澤 恵 悟・他	451
急性腹痛のため緊急腹腔鏡手術を行った卵巣過剰刺激症候群の2例	立 花 綾 香・他	693
急速な経過をたどった卵巣退形成がんの1例	藤 井 健 太・他	833

平滑筋肉腫へ悪性転化した卵巢成熟奇形腫の1例	青木羽衣・他	937
子宮悪性腫瘍手術時に用いた血管クリップが原因で、二期的腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術時に総腸骨静脈損傷をきたした1例	山口翔吾・他	1057
低VWF血症に伴う過多月経、重症貧血に対し、LNG-IUSにより治療した1例	三原綺乃・他	1169

—漢方よもやま話—

甘草配合漢方エキスのグリチルリチン含量	能勢充彦	102
紫雲膏	能勢充彦	216
麻黄湯	能勢充彦	328
抑肝散	能勢充彦	442
芍婦膠艾湯	能勢充彦	568
五苓散	能勢充彦	686
白虎加人参湯	能勢充彦	814
桃核承気湯	能勢充彦	928
苓桂朮甘湯	能勢充彦	1048
漢方薬・生薬の副作用について	能勢充彦	1158
五淋散	能勢充彦	1278
芍薬甘草湯	能勢充彦	1398

—専門医・認定医をとろう！私の体験記—

ロボット支援手術プロクター(日本婦人科ロボット手術学会)	今井一章	112
がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)	西川忠暁	222
女性心身医学会認定医(日本女性心身医学会)	紫藤史	334

—弁護士が答えます！法律にまつわるあれこれ—

もしも研修医に医療ミスがあったら、上級医や研修医はどのような場合に責任を負うの？	福原正和	110
ホームページに掲載できる標榜科目に決まりはあるの？	福原正和	220
患者情報の漏洩にはどんな対応が求められるの？	水上裕嗣	332
2025年4月からのカスハラ防止条例の施行により医療機関での対応にどんな影響があるの？	水上裕嗣	446
患者情報は誰に帰属するの？写真や動画などはどこまで渡してよいの？	山田隆史	572
院内設備による事故が起こった場合、どんな賠償責任を負うことがあるの？	山田隆史	690
SNSでの情報発信ではどんなことに気をつけたらいいの？	栗野公一郎	932
合併症により患者さんが損害を負っても事前に説明して同意をもらっておけば責任はないの？	栗野公一郎	1052
患者がTOLAC/VBACを強く希望した場合はどうしたらよいの？	秦奈峰子	1162
Google Business Profileでの風評被害にはどのように対応すればいいの？	福原正和	1282
診療ガイドラインを遵守していない医療行為を責任追及されたら、医療機関に責任が発生するの？	福原正和	1400

—医療裁判の現場から—

特別編 術後の女性患者にわいせつ行為をしたとして、準強制わいせつ罪に問われた乳腺外科医の無罪が確定した事例	秦奈峰子	818
---	------	-----

—産婦人科の最前線を訪ねて—

ISPOG 2025 in Seoul	廣瀬明日香	1054
---------------------	-------	------

IFFS 2025 in Tokyo	平 塚 大 輝	1165
WCE 2025 in Sydney	諸 井 明 仁	1284
APMF2025 in Kuala Lumpur	大須賀 拓 真	1403